

## 学校における野球部の存在

学校の中での野球部の存在は、部員が多くなり、それなりの結果を残すようになればなるほど微妙な立場になっていくことがある。皆から必ずしも応援される存在ではなく、教員の一部などから疎まれ、ときには嫌われる存在になっていくこともあるということだ。

夏の大会など1・2回戦から新聞などで取り上げられ、ちょっと活躍すればヒーロー扱い。体育科などで他の部活動指導している人からすれば、「自分たちだって、いや自分たちの方が頑張っているのに、どうして高校野球ばかり」と思うのは当然のこと。

「高校生の部活動の1つなのに、無理矢理感動的なドラマを作るマスコミの取り上げ方は、日ごろの選手たちを知っている人からは何か不自然な気がするのかもしれない。だいたい、野球部は練習試合でグラウンドを占有することも多く、マウンドなど授業や他のクラブの活動にとっては邪魔でしかない。日頃、グラウンドで隣り合って練習をすれば、硬式ボールが飛んできて危ないっတာない。野球部員はみんなから応援されるのが当然みたいな顔をして生意気だ。加えて、部員の中には「俺は野球やりはこの学校に来ている。だから、勉強はやらなくてもいいんだ」とか言い放つ奴、掃除やホームルーム等をサボる奴なんかがいれば、「あいつらの勘違いは許せない」「野球部員である前にこの学校の生徒であることを分かっていない」などと言われてしまう。

また、野球部の生徒は監督の言う事はよく聞くせに、他の先生の事はなめて反発ばかりする。だから「そんなことすると監督に言いつけるぞ」と言うと、おとなしくなるなどという話も聞いたことがある。校内や校外で何か問題を起こせば、「連盟に行って活動できないようにしてやる」などと言われたこともあった。

工業高校のときには、部員の数が増え、校舎内を部員が肩で風を切って歩いていて周囲を威圧しているのでもしかしたら言われたこともある。面倒くさいので選手に「校舎内では4人以上で集まっちゃいけない」などと言ったこともある。笑い話である。

校外からも電車内でまとまって、うるさいという苦情を受けたこともある。選手たちの態度に問題があることも多いが、中にはそこまで言わなくてもと思うこともある。確かに体がでかくて坊主頭の生徒が集団でいたり、何か言われても愛想なく返事をすれば不貞腐れたり、威圧していると思われるのかもしれない。誤解を受けるよう、選手には常に謙虚にと言いつけている。他の先生に傲慢と取られる態度をとった生徒を

先生の前でどやしつけたこともある(半分ポーズもあるが)。

反対に大会で勝ち上がり職員室で「あと何回で甲子園ですね。甲子園の応援に行けたら嬉しい」とか「授業なんかやめて、神宮に全校応援しよう」などと言ってもらったこともある。また野球部の活動を応援するため、校内の予算を野球部に優先的に回そう」とか「野球部に入部したいものが多数いるから、この学校の倍率が出ている。そのことを教員はわかっているのか」などと校長が言ったりすると嬉しいと思う反面、そんなこと言っては反発する人がいるのは当然で、「ちょっと勘弁してよ。たかが高校生の活動ですから大騒ぎしないでください」と思ってしまうこともあった。

最近では片倉でもこうしたことにあまり気を使わなくなった。私の年齢とともにそういう話は私の耳に入ってこなくなったのかもしれない。また、選手たちが自覚して行動していることもあるだろうが、選手の数以前ほど多くなか大人しくなったこと。そして、大会で以前のような実績を残せず、目立たなくなったからだとすると少々寂しい気もする。